



中野ミューラルプロジェクト



中野区は、中野区基本構想に掲げる「10年後に目指すまちの姿」を実現するための施策「遊び心あふれる文化芸術をまち全体に展開する」取り組みのひとつとして、区内のさまざまな場所で壁画（ミューラル）を制作する「中野ミューラルプロジェクト」を実施。まちを彩る新たなアートが区内各所に誕生しています。

◆壁画（ミューラル）で誰もが身近に文化芸術に親しむ環境を創造する

中野区基本構想実現に向け 立ち上げたプロジェクト

中野区は令和3（2021）年3月、中野区基本構想を改定し、「10年後に目指すまちの姿」として4つのまちの姿を描きました。

- （1）人と人がつながり、新たな活力が生み出されるまち
 - （2）未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち
 - （3）誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち
 - （4）安全・安心で住み続けたいくなる持続可能なまち
- 中野ミューラルプロジェクトは、（1）を実現するための「遊び心あふ

れる文化芸術をまち全体に展開する」施策としてスタートしました。

プロジェクトのメインテーマは、「ミューラルが人と想いをつなぐあなたの日常とともに対話するアート語れるアート、語り続けられるアートだから、ずっと途中。だから、ずっと未完成」。

後述するプロジェクト推進プラン検討会で定めたこのテーマには、多様な価値観を尊重し合う中野の風土と、常に未来への途上であるとの思いが込められています。

中野区の強みは、区民、事業者、諸団体の方々が「中野愛」を共通項としたコラボレーション活動を行い、文化芸術を育んでいるところにあります。

この中野ミューラルプロジェクトでは、地域の方々の関わりで「遊び心あふれる」壁画を創り上げ、まち全体に新たな活力を生み出すことを目指しています。

契機は中野駅北口駅前広場の壁画制作

中野ミューラルプロジェクトがスタートしたきっかけは、令和3（2021）年度に制作した中野駅北口駅前広場の壁画です。もともとJR東日本が平成前半に描いた壁画がありましたが、こちらの劣化が進み、JR中野駅から「壁画をきれいにしたい」と話を聞いていました。同時期に区内塗装事業者から「廃材塗料を使って壁



中野区立鷗宮小学校体育館の壁画



中野駅北口駅前広場の壁画

画制作をしたい」との相談があったことから、中野区はシティプロモーション事業の一環としてこの2者をマッチングし、当プロジェクトの調整と広報の役目を担いました。

壁画を制作したのは、国内外で活躍中のアーティストユニットW H O L E 9（ホールナイン）。壁画のデザインは、中野の資源をモチーフに、アーティストがJR中野駅と中野区と協議のうえで決定したもので、中野サンプラザ、シイノキ（中野区の木）、ツツジ（中野区の花）、学生のイメージ（中野区に大学や専門学校が多いことから）などが描かれています。制作経費は全てクラウドファンディングで確保したため、中野区には事業経費の負担がありませんでした。

区立小学校体育館 壁面にも壁画を制作

中野駅の壁画と同時期に、中野区立鷺宮小学校体育館の壁面の壁画制作もスタート。こちらは鷺宮小学校創立140周年記念行事の一環として、同校の歴史と伝統を壁画に残そうと、記念行事の実行委員会が企画

したものです。制作は中野駅前と同じ塗装事業者とアーティストの小田佑二氏、鷺宮小学校の児童と卒業生、中野区が連携して行い、中野区は区有施設の壁面利用を許可するなどの調整と広報を担いました。制作経費は鷺宮小学校PTAと鷺宮小学校が負担しました。

鷺宮小学校の歴史と伝統を踏まえた壁画とすべく、アーティストの小田氏が鷺宮小学校の在校生、卒業生、地域の方にインタビューしたうえでデザインを決定。壁の上部には鷺宮小学校の水車や鷺宮盆踊り、田園風景など鷺宮の今と昔を表すデザインが小田氏の手で描かれ、壁の下部には同校で20年以上続く詩の音読活動の表現として、児童たちも参加してお気に入りの詩から連想した絵を描きました。

2つの壁画が評判となり プロジェクトの規模拡大へ

中野駅北口駅前広場と中野区立鷺宮小学校体育館の壁画は、新たな地域の名所として評判になりました。この頃、中野に本店があり、シティプロモーション事業などで協働する西武信用金庫から「信金中央金庫の寄附事業

『SCCBふるさと応援団』を活用してシティプロモーション事業を推進してはどうか」という提案がありました。中野区はこの寄附事業に中野ミューラルプロジェクトを応募。審査の結果、1,000万円の寄附が決定し、この寄附を財源に令和4（2022）年度から2年間の事業として、中野区内で複数の壁画を制作するプロジェクトがスタートすることになりました。

この2つの壁画についてまとめた「中野、描く。心、鮮やかに。中野ミューラルプロジェクト」（民間事業者と区の連携によるアートを通じたプロモーション）は、令和4年全国広報コンクール（広報企画部門）で入選。全国広報コンクールでの入選は、中野区では初となります。



中野駅北口壁画お披露目



鷺宮小壁画制作風景



中野駅北口壁画制作風景

◆区民協働として推進プラン検討会とワークショップを開催

学識経験者等からなる 検討会でテーマを決定

令和4年度からのプロジェクト実施にあたり、全体的な方向性を定めるため、「プロジェクト推進プラン検討会」を2回にわたって開催。検討会委員として、区内の大学や専門学校から学識経験者5名、中野区観光協会から1名、西武信用金庫から1名の計7名の方に集まっていたきました。

第1回検討会では、プロジェクトのテーマをディスカッション。議論の中で出たキーワードを核にメインテーマ（2ページ参照）とサブテーマ「多様な人と人がつながり、物語が生まれるまち」「人もまちも変化し続ける、未完成なまち」を決定しました。壁画を描く壁画は、区民や区内事業者などから公募。第2回検討会では、区内から応募があった壁面のうちの壁面に描くべきかをプロモーション効果などの観点から議論し、中野駅東西連絡通路、カサ・デ・オリバ（就労継続支援B型事業所・カフェ）、MOCO（帽子店）、鍋横区民活動セ

ンターの4か所を制作壁面に決定しました。

区民参加ワークショップで 壁画デザインを考える

壁画の制作にあたっては、壁画周辺にお住まいの方を中心に集ってもらい、壁画ごとのテーマやデザイン案を決めるワークショップを開催しました。第1回ワークショップは、カサ・デ・オリバ（就労継続支援B型事業所・カフェ）と近接している鍋横区民活動センターのテーマワード選定のため、町内会や区民活動センターの運営委員など鍋横地域にゆかりのある人が集合。参加者からは「町会同士のつながりが強く、まちぐるみで活動する下町っぽさがある」「多様な人がつながり、笑顔、思いやりがあふれる地区にしたい」などの意見が出され、その結果、「下町」「多様性」「笑顔・思いやり」の3つが鍋横地域のテーマワードになりました。

第2回ワークショップは中野駅東西連絡通路の壁画デザインについて、アーティストのMaru Michinori

氏の原画案をもとに地域の方々でディスカッション。原画案では、中野駅北口駅前広場と色合いを合わせたブルー系でしたが、「もっとと明るい色合いにしたい」という参加者からの意見を取り入れて、暖かい色合いとなりました。また参加者からは「ファミリーや子どもたちがいる絵がいい」「時間帯や見る角度によっていろいろな見方ができる絵がおもしろい」などの意見が出され、参加者それぞれが思い描く中野の未来を、画用紙に自由に表現しました。

選定された制作壁面のうち 2か所の壁画が完成

令和5（2023）年3月下旬、プロジェクト推進プラン検討会で選定された鍋横地域のカサ・デ・オリバと中野駅東西連絡通路の壁画が完成。中野駅北口駅前広場、中野区立鷺宮小学校に続く第3弾、第4弾の壁画となります。

カサ・デ・オリバの壁画は「日常の中でも印象に残る明るいアート」をコンセプトに、多様性を感じさせるカ



カサ・デ・オリバ壁画



中野駅東西連絡通路壁画

ラフルで動きのある絵が描かれました。アーティストの高橋鉄平氏は「自分の作風でもあるインパクトのあるデザイン、ポップなカラーと全体の躍動感を意識して描いた。実際の絵のサイズ以上の広がりを感じてもらいたい」と作品への思いを語りました。

中野駅東西連絡通路の壁画のテーマは、「未来都市中野へ変わりゆく街」。ワークショップで出た意見や地域リサーチを踏まえ、過去からさらに進化していく未来の中野の姿が細部まで鮮やかに表現されています。昔ながらの商店街や初期の中野駅舎、閉館する中野サンプラザの後ろには新たに建設予定のタワーが描かれています。「中野にしかないもの」と「これから変化していくもの」など、中野を表現する様々な要素をポップに詰め込んでいるのが見どころ。中野の懐かしいまちなみと未来への思いを誰かと一緒に語りたくなるアートです。

ミューラルプロジェクトが新たな事業展開につながる

このプロジェクトでは、結果はもちろんのこと、プロセスを大切にしています。異なる世代や立場の地域の方々、中野への思いを軸に検討会やワークショップでディスカッションを重ねることにより、新しい関係が生み出されています。

一つの例として、検討会委員として参加した学校法人と中野区が、子どもたちを対象としたタウンミーティングを行った際、障害のある子どもの食に関する話題が上がりました。その「食事に制限のある子どもでも、家族と同じ食事を楽しみたい」というテーマを基に、この法人の設置校で食物栄養学科のある短期大学の学生（立案）、区内にあるスイーツブランド（スイーツ制作）、区内にある摂食・嚥下障害児支援団体（監修）の3者を中野区がマッチングし、コラボレーションが実現。嚥下障害のある子どもでも食べられるスイーツ「飲めるチーズケーキ」を開発しました。インクルーシブフード（嚥下調整食）支援スイーツとして、公式オンラインストアでの販売を

予定しています。

中野ミューラルプロジェクトは、区の事業としては令和5（2023）年度で終了しますが、中野区は、区民や企業による協働の取り組みとして、今後も新たな壁画が誕生していくことを期待しています。

「つながる はじまる なかの」を基本構想の大きなテーマに掲げる中野区は、これまで培った信頼性をさまざまな協働の創出などに活かしながら、活力あふれるまちづくりを進めていきます。



壁面は区のあらゆるメディアで広く募集



中野駅東西連絡通路の壁画制作に関するワークショップの様子



カサ・デ・オリバの壁画制作に関する鍋横地域のワークショップの様子

取材協力／中野区